文芸つばめ記載例

小随童話筆説

四行あける

書き出しは五行目から

題　名

氏　名

〈〇〇小・中　〇年〉

少年は、高熱を発した。その熱がいつまでも下がらず、とうとう入院することになった。

「君は、布団の国へ行くわけだ。あそこはいいぞ。」

少年は、病気に慣れていなかった。そういう少年を慰めるために、友人が気軽な言い方をしたわけだ。しかし、そればかりではない。病気になれているその友人の言葉には「布団の国」へ行く少年をうらやましがる実感も含められていた。

「高い熱は、そのうち下がってくる。君は、高い熱のとがった頭をうまい具合になでて、丸い小さな頭にすることができるようになる。微熱というものは、いいものだ。そうなれば、君は布団の国の王様になれる。」

詩

七行あける

書き出しは八行目から

題　名

氏　名

〈〇〇小・中　〇年〉

その花片は

海岸のビルの八階あたりの窓から

ピアニッシモのアルペジオで僕に散りかかって

★題名・氏名を書き本文は、五行目から書き始める。頁は、一枚一頁とする。
★原稿用紙は、開いたまま右肩をしっかり綴じる。
★文中で改行したら一字下げて書き始める。
★会話文は、原則として、地の文から独立して改行する。会話文が終わったら地の文は改行一字下げで書き始める。
★句読点〈。、〉および記号は、ます目一つ分とする。
★句読点は行の冒頭には打たない。行の末尾に、原稿用紙の枠外にはみ出して打つ。
★会話文の末尾の〈。」〉は、二つ合わせて、ます目一つに入れてもよい。
★数字は、漢数字〈一・二・三・十等〉を使用する。